シリーズ ひと

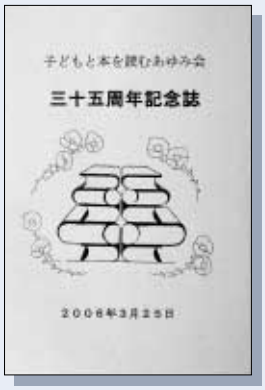
「また来てね」という子どもたちのキラキラした笑顔が支えです

牛田（うしだ）　文子（ふみこ）さん

上野田在住。
「子どもと本を読むあゆみ会」会長

広報しらおか「おしながき」、図書館の欄に、毎月絵本の読み聞かせで載っている「子どもと本を読むあゆみ会」。「どの子にも良い本を」を目標とし、子どもと読書の喜びを共有することを目的として昭和45年に発足、このたび三十五周年記念誌を発行した。

現在、あゆみ会は図書館、小学校、児童館、保健センターなどでの読み聞かせ、会員同士の勉強会などの活動をしている。



牛田さんが入会したのは昭和51年で、会員は60人ほど。当時は自分の子どもたちを連れて来て読み聞かせをしていたが、ときには児童作家を招き、町中の子どもに声をかけて読み聞かせをしたこともあった。

「本があっても『勝手によみなさい』じゃなくて読んであげることが大事なんです。」

牛田さんは子どもに読み聞かせをするたいせつさを訴える。

そんな牛田さんに読み聞かせの楽しさを尋ねると、「子どもたちが目を輝かせながら『また来てね』と言ってくれたときが最高の喜びです。」と語ってくれた。また、心がけていることは、「読み聞かせによる本との出会いは子どもたちにとって新しい体験となり、すばらしい贈り物になると思います。ですから、子どもの年齢に合わせた選書のたいせつさを痛感しています。絵本の中には、子どもの想像力や豊かな心を育てる心の栄養がぎっしり詰まっていると思うんです。」

牛田さんが入会したころは毎年会員数が増えていき、おおぜいの子どもたちが集まっていたが、その後少子高齢化を迎え、最近は高齢者の施設や病院などにも活動の場を広げている。

最後に、今後の夢を尋ねると「白岡町に新しい図書館が出来て、読み聞かせができる部屋があるといいですね。そこにあゆみ会の会員がいつもいて、子どもたちにいつでも読み聞かせができるようになることが夢です。」と子どものように目を輝かせて話してくれた。

2006年5月1日発行
発行人　白岡町長　濱田福司
編集　白岡町町民活動推進課広聴広報担当
白岡町大字千駄野432番地　☎(92) 1111
ホームページ　http://www.town.shiraoka.saitama.jp/

わが家のアイドル

「立っち大好き♥」

田口（たぐち）　もえちゃん（11か月）

「パパにはまけないぞ！」

千葉（ちば）　将太郎（しょうたろう）くん（5歳）
龍之介（りゅうのすけ）くん（1歳）
真之介（しんのすけ）くん（2か月）

「初めてのBCG注射、痛くなかったヨ」

若林（わかばやし）　柚妃（ゆずき）ちゃん（4か月）

★お子さんの写真を募集しています　氏名（保護者とお子さん）・生年月日・住所・電話番号・写真にコメントを添えて、直接または、封書で郵送してください。※年齢については、５月１日現在で掲載しています。

投稿先　〒349-0292　白岡町大字千駄野432　白岡町町民活動推進課広聴広報担当
☎(92) 1111　内線352